

主任牧師 中島 聡

「さあ、しつかり立って、主があなたたちの

目の前で行われる偉大な御業を見なさい。」

サムエル記上二二・一六

二〇一四年春に「五ヶ年の宣教計画」を立てるにあたって主に示されたことは、ひたすらに「主の恵み」でした。「あなたが遣わされた地は祝福されている。強く、雄々しくあれ。あなたの歩みは祝福される。」主の御声にひれ伏し、感謝し歩み始めることができました。そして、『清水ヶ丘教会二〇一七年の恵み』（内藤統括書記編）を読み返し、主の御声は真実であったと感謝を深めるものであります。

《二〇一七年の大きいなる主の恵み》 昨春、学校法人白百合光の子幼稚園が開園し、キリスト教幼児教育保育の維持発展の礎が固められました。これは幼な子たちと保護者への福音伝道の機会が増し加えられたことであり、J.C・子どもの教会の大きな発展に繋がっています。確かに少子高齢化顕著な時代ですが、教会はこの時にあって幼稚園が強められ、一昨年にはエレベーターが完成し高齢化への対応が整えられたことは誠に感謝なことです。

また、教会の次世代を担う「せいねん礼拝」が、「第Ⅲ礼拝」となって全世代と共に捧げる礼拝を志して行われるようになりました。礼拝には、出席する者と礼拝に奉仕する者が必要であり、どちらも一朝一夕に得られるものではありません。特に奉仕者は相当期間の鍛錬を受ける必要があります。「せいねん」が礼拝を捧げるために祈り、準備し、奉仕する萌芽に大きな喜びを覚えます。一方、主に高齢その他諸事情により来会困難な兄弟のために、「聖餐礼拝」が提起され、守られたことにも感謝いたします。礼拝、聖餐の恵みに与る機会を継続していくために、送迎の体制や教会施設を整えていくことは大切な課題として示されています（すでに墓所への坂道整備が完成していることも感謝です）。

また、教会創立七〇周年を記念して『証集』が編まれました。「わたしたちが聞いて悟ったこと、先祖がわたしたちに語り伝えたことを子孫に隠さず、後の世代に語り継ごう。主への賛美、主の御力を、主が成し遂げられた驚くべき御業を。」（詩編七八・三〜四）昨年までに成し遂げられたことの全ては、決して突然、偶然ではなく、この教会に注がれてきた「主の恵み、主の祝福」、先達の方々の尊い奉仕、篤い献身の継承によるのです。信仰を正しく受け継ぐことの大切さを深く思わされます。証集によって清水ヶ丘教会、兄弟姉妹お一人お一人に注がれてきた恵みの数々を、我が信仰、我が恵みとして学び、継承して参りたいと願います。

そのためにも、聖書に学び、証を語り合っって信仰の継承に努めていくことが出来る「家庭集会」の場を大切にして参りたいと願います。昨年、杉

田地区家庭集会在が再開できたことに感謝いたします。事情のため井土ヶ谷・永田地区家庭集会是休会いたしますが、これまでの御労に深く感謝しつつ、またいつの日にか再開できると信じ祈って参りたいと願います。

《二〇一八年の主の恵みを確信して》 この『まじふぼ』が発行される時には、教会は施設の大部分（礼拝堂、ミッションホール）におよぶ「空調新調工事（水冷式↓空冷式）」に踏み込んでいます。猛暑、大寒波、異常気象が常態化しつつある今日において、空調システムの整備は必須です。大きな設備工事となりますが、役員会、営繕担当において準備、交渉、祈りを重ね、主が最善を備えてくださいました。今年の夏までに完成することと、工事費の必要が満たされるために祈り、皆で捧げて参りたいと願います。

これまでの数え切れない恵みと同様に、二〇一八年も、主は「偉大な御業」を現してくださいませ。私たちは御言葉どおりに「しつかり立って」その御業を見届けていくのです。「恐れてはならない」とは、創世記から黙示録まで一貫した聖書のメッセージです。主は御業のために天地万物を創造され、御子をこの世にお遣わしになり、その命を十字架に献げさせ、再びこの世に遣わしてくださるのです。御業とは私たち主を信じる者すべてに永遠の命を与え給う「御救い」のことです。昨年、『宗教改革500周年記念礼拝』を守りましたが、私たちはこれからも揺るぐことなく「聖書のみ・信仰義認・万人祭司」のプロテスタント信仰、成すべき改革を恐れぬ勇氣によって、この主の教会を益々豊かに立てあげ、福音伝道に仕えて参りましょう！ハレルヤ！